

## 第66回 記者懇談会実施概要

1 日 時 2010年3月11日(木) 15時～17時

2 場 所 関西大学100周年記念会館 第2会議室

### 3 内 容

#### (1) 研究発表・質疑応答 (15:00～16:00)

・原 <sup>ほら</sup>直也 <sup>なおや</sup> 環境都市工学部准教授

発表テーマ「LED照明時代に効果的な照明制御の実現に向けて」

・志岐 <sup>しき</sup>幸子 <sup>ゆきこ</sup> 文学部准教授(人間健康学部就任予定者)

発表テーマ「トップアスリートの証言を基にした「感性」に関する一見解

—『岡田武史監督と考えた「スポーツと感性」』(日本経済新聞出版社)を著して—

#### (2) 学内状況説明・情報交換 (16:00～17:00)

① 高橋大輔選手・織田信成選手への学長表彰授与について 資料1

② 2010年度入学試験合格者状況について 資料2

③ 平成21年度卒業式、大学院学位記授与式

および平成22年度入学式の挙行について 資料3

④ 平成22年度客員教授の委嘱について 資料4

⑤ 堺キャンパス新築校舎棟地鎮祭及び開校式の挙行について 資料5

⑥ 高槻ミューズキャンパスの竣工について(ご報告) 資料6

⑦ 関大生の活躍について 資料7

### 4 大学側出席者

楠見晴重学長、黒田勇副学長、林宏昭学長補佐

原直也環境都市工学部准教授、志岐幸子文学部准教授

小上廣之学長室次長、福田聡入試広報グループ長

川原哲夫学長室次長(学長担当)、横山博行広報室次長、木田勝也広報課長 他

### 5 参考資料

(1) 第11回政府会計フォーラム 開催案内

(2) 国際交流研究集会「65年目の証言」 チラシ

(3) 関西大学通信 第373号・第374号

(4) ニュースレター「Read」第20号

(5) 平成22年度関西大学博物館企画展 チラシ

(6) スプリングフェスティバル チラシ

以 上

## LED 照明時代に効果的な照明制御の実現に向けて

環境都市工学部 准教授 原直也

### 【概要】

LED の注目される特徴とされる寿命や発光効率の向上に、光量の増大と演色性が伴うことで、白色 LED が照明光としても普及している。現在は、LED 電球に代表されるように、主に既存の照明設備に取付けるランプの代替ランプとして販売されている。そのためランプの配光の違い等から既存の照明器具との不適合などの問題を生じ、LED が持つ特性を活かしきるものではなく、今後は照明器具や照明システム全体としての LED 対応のさらなる発展が望まれる。LED 等の真の普及には、寿命に到達する前に登場する新たな製品と比較しても、使用され続けるデザインが求められる。LED や有機 EL 等による照明は、その特性を活かした手法を確立し、それを実現する照明設備へと混乱なく速やかに移行することが望まれる。

LED の他の特徴である点灯や消灯や調光の制御が容易なことから、通信制御システムとの親和性が非常に高い。LED 照明器具は蛍光灯や HID ランプに必要な点灯のための特別な回路の高度な技術を有せずとも比較的簡単に制作可能である。LED の普及を機に、照明を扱っていなかった多くのメーカーが照明分野に参入している。物を照らす照明となるには、居住空間において居住者に効果的な照明すべき対象とその方法、その照明のための要件を備える照明器具や照明設備にまで配慮する技術の確立が必要であり、簡単ではないようである。調光は時間や空間における明暗の制御だけでなく、光の色の制御が可能となっている。従来、室の印象を模様替えにより変えていた効果の一部が、照明光の色を変えることで瞬時にまた経時的に実現可能になる。光を有色にすることで照射された物の色の見え方が変わり、また、有彩色光に順応することで他の照明光の空間に移動した際に色の見え方が変わることがある。これらの影響を十分に把握した上で照明光の色の制御が必要となる。

このような背景の中、最近取り組んだ研究として、照明光の色の瞬時変化時の順応に伴う、照明光の色の見え方に関する研究、室の明るさ感や印象評価に関する研究を紹介する。照明光の色の見え方は、反対色の応答で表され、瞬時変化直後は定常時の応答の変位を強調する色の見え方になる。色が鮮やかなほど順応に時間を要している。定常順応時における室の明るさ感は照明光の色だけ（照度一定）ではそれほど大きく異ならないが、印象評価の中には、くつろぎや暖かさなどには差が見られている。瞬時変化時の評価の推移には光色の効果に対する強調だけでなく、変化に対する印象が加わって推移する様子が見られた。現在は瞬時変化ではなく、照明光を徐々に変化させた状況での視環境の評価について研究を進めている。

### 【プロフィール】

専門：建築環境工学、光環境、視環境。

2005 年までは主に明視性に関する研究に取り組んできた。「高度福祉社会の QOL 改善に寄与する生活支援工学構築のための実践的研究」文部科学省学術フロンティア推進事業の一環として 2006 年から居住空間全体の視環境に拡大して取り組む。

略歴：大阪大学工学部建築工学科、同大学工学研究科博士前期・後期課程修了、建築工学専攻。2000 年より関西大学に勤務。

所属学会：日本建築学会、照明学会、日本照明委員会、色彩学会、他。

トップアスリートの証言を基にした「感性」に関する一見解  
—『岡田武史監督と考えた「スポーツと感性」』（日本経済新聞出版社）を著して—

文学部准教授（2010年4月人間健康学部就任予定） 志岐幸子

【概要】

「野球は感性なくして成り立たない」（イチロー選手）、「スポーツは感性です」（アテネ五輪金メダリスト）と言い切るアスリートたちがいる。世界で戦う選手や指導者たちは、一様にスポーツにおける「感性」の重要性を指摘する。

これまで、スポーツ界ではあらゆる観点で科学の導入がなされてきたが、現場には科学の限界を指摘する声がある。かつて、長嶋茂雄氏の采配について「勘（感）ピューター采配」という言葉が流行したこともあったが、「感性」の働きによって得られる「勘」は、スポーツの勝敗にも関与する。

あまりにも有名な「ボールが止まって見えた」、「ボールの縫い目が見えた」という体験は、選手たちがいわゆる「ゾーン」に入っていたことを示唆している。北京五輪で銅メダルを獲得したレースについて、朝原宣治選手が語った無意識的な感覚も、「ゾーン」特有のものと思われる。このような超常的な体験は、多くのアスリートたちがベストパフォーマンスを生み出す際に経験しているが、それらを会得するためには「感性」による最適な情報処理が不可欠である。

では、スポーツにおける感性とは何か。また、スポーツにおいて、感性はどのような仕組みで働くのだろうか。各競技のトップアスリートたちにインタビュー調査を行った結果を基に、これまで抽象的で曖昧なものとして未開拓の領域であったスポーツにおける感性について、心理学・脳科学的観点を交えながら、その定義と仕組みを中心とした一見解を提示する。

トップアスリートを通して見えてきた「感性」は、その強弱や働き具合の違いはあっても、すべての人間が日々の生活や人生においても無意識のうちに使っているものである。ノーベル賞を受賞した科学者たちが一様に「感性」の重要性を指摘するように、「感性」は他の分野においても重要なものなのである。

「21世紀は感性の時代」と言われて久しい。「感性」は、スポーツに限らずあらゆる分野において、感動や一体感を伴うベストパフォーマンスを生み出す条件であり、人類の幸福の追求とも切り離せないものであろう。

【プロフィール】

兵庫県出身。関西大学文学部准教授。早稲田大学非常勤講師・同大学感性領域総合研究所客員研究員。専門は、スポーツ領域からの「感性」へのアプローチを元にした感性研究。1992年早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒業。1990年代後半、スポーツ番組等でキャスター、ゲストコメンテーターを務めた後、2003年早稲田大学大学院人間科学研究科博士課程修了、博士（人間科学）。本発表は、日本感性工学会第5回大会で発表した「スポーツにおける感性の仕組みと働きに関する一見解」（優秀発表賞受賞）を基礎にしたものである。2009年4月以降、現職。趣味は映画・演劇・音楽鑑賞など。

## アンケート調査へのご協力の御願い

恐れ入りますが、アンケート調査にご協力を御願い致します。

個人情報につきましては、支障がおありの場合は記載して頂かなくても結構ですが、使用をお願い致します場合には、事前に必ずご連絡させていただきます。

社名 \_\_\_\_\_ 部署 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 年齢 (年代) \_\_\_\_\_ 性別 \_\_\_\_\_

Q1. 普段、記事を書かれる際に、「感性」という言葉をどのような意味で使用されていますか？

Q2. 現在の仕事における「感性」を定義してください。

Q3. 意識的・無意識的にかかわらず、仕事で必要な感性を磨くためにされていることはありますか？

Q4. あなたが最も感性的と考えるスポーツ選手（元選手）はどなたですか？

<選手名>

<理由>

Q5. あなたが考えるスポーツ界における「スーパースター」の定義を教えてください。

ご協力頂きまして、有難うございました。